

ちいきのなかま通信

No.61

発行日：平成30年4月11日

発行者：特定非営利活動法人 ちいきのなかま

平成30年度が始動しています



今年も「みんなの実家プロジェクト」に取り組みます。産前産後ケアからの切れ目ない支援…家事援助を立ち上げること、人材を育成すること、次世代に事業をつなぐこと、そのひとつひとつが大変そう、足がすくんでしまいそうですが、そんな時こそ胸を張って歩いていこうと思います。

ファミリーサポートセンター事業の受託も続きます。利用件数は昨年度と変わりはありませんし、現在は業務経験の長い職員体制で対応しているのでかなり効率的に仕事できています。でも次世代に繋ぐ中では、当然新たなスタッフとの出会いを想定しないとイケません。昨年度は会員管理ソフトのバージョンアップでかなりの変更がありました。事業に即した効率アップが可能であり嬉しいことです。業務要領の見直しも必要です。リスク管理も合わせて「管理」する業務でありつつ、人と人をつなぐ事務所としてみなさんに親しみを感じていただける風通しの良さは大事にしたいと思います。

昨年度末より、新たなネットワークのお誘いもいただき、組織のあり方を考えながらソーシャルビジネスが可能になるかもと期待が膨らむ春です。

「わたしたちの前に道はない…わたしたちのうしろに道ができる」の気持ちで運営してきました。設立して10年、佐世保市の中では中堅のNPO組織です。この2年ほど、社会からの評価もいただけるようになりました。代表として、自分で「価値ある活動」と言うことにはずかしいところがありました。しかし、いまや多くの仲間たちが仕事をし、応援していただける組織になっています。新たな価値を創り出したことを誇りに仕事をしたいと思っています。

平成30年、改めてみなさんにお手伝いをお願いします。

- *会費で応援してください。（詳細は最終ページに記載）
 - *「みんなの実家」事業は居場所づくり、食器や家具などもふくめて寄付で応援してください
 - *ボランティアとして居場所でイベントで活動を支えてください
- 地域の子どもたちのために成果を上げていく所存です。



今年度も、よろしくお願いたします。

(スタッフM)

イラストでみるちいきのなかま「〇〇のこ〜んなかんじ」
ちいきのなかまの周りで起こる出来事をイラストで紹介☆

こーいくんのこ〜んなかんじ

by 蓮すけ



浩二君との出会いは20年以上前にさかのぼります。「発達の可能性は誰にでもあり、生涯にわたる」ということを彼はずっと教えてくれています。一部の発達障がいの人々の驚異的な記憶力は珍しいことではありません。浩二君の記憶力もかなり優秀です。今の浩二くんがすごいのはその記憶に関連付けて話の世界が広がることと、対話する相手に合わせて話題提供できる社会性の発達が著しいことです。その力は、多分ですが、30代で花開き、後天的に成長してきたと、長い付き合いのなかで感じています。20代~30代前半、どちらかというとな向きの期間に自分の興味のあるものにこだわり、とことん調べ、驚異的な量の情報を記憶し、30代後半からその情報を表出するに至るのですが、話の質がどんどん上がります。コミュニケーションは好きなラジオを聴いて、ラジオのパーソナリティの人たちやMCさんの語りに学んだのではないかと推察しています。言葉が豊かになり、話が上手になるにつれ周囲とのつながりも豊かになりました。料理にもこだわりがあり、上手です。ときどき食事会を提案してくれます。彼がいるからつながっていると感じます。浩二くんは大人としてなくてはならない存在です。

ちいきのなかま活動レポ

産前産後アンケートの取り組みが長崎新聞に掲載されました。

～佐世保に暮らす239名の女性たちのリアル～



当事者の声を聴いていく作業を続けています。子どもを産み育てるのが大変な時代で、日頃からいろいろな大変な状況をお聞きしています。聞き取りやアンケート結果は、現場の実感を裏付けてくれます。

大変さを分析する力が必要だと思っています。

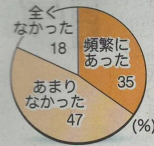
そんな学習も始めています。

ドイツやフランスで出生率が上がり、オランダでは世界一の子育て環境を準備することができたという話を聞きます。どの国もかつては子育てに厳しい環境であったとのこと。きっと日本にも好転の兆しが来ることを願って、また地道な調査と分析を続けていこうと思います。



佐世保市のNPO法人「ちいきのなかま」は、市内の子育て中の母親に産前産後アンケートを実施。結果からは、多くの母親が育児経験が乏しい状態で子育てを始める一方、身近な人に頼ることが少ない現状が明らかになった。ちいきのなかまは「産後の生活支援の仕組みや、産前に夫婦で役割分担について話すことが必要」と訴えている。

出産前に赤ちゃんや子どもを抱いたことはあったか？



アンケートは2015年17年にかけて実施。ファミリーサポートセンターが協力した。出産前に赤ちゃんを抱いた経験や初産の不安の有無など9項目を尋ねた。

出産前に赤ちゃんや子どもを抱いた経験については「あまりなかった」105人と続き、「大

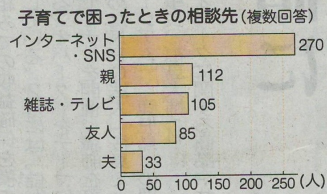
身近に頼れる人少なく「夫婦で役割分担を」

ト・SNS」が270人と最多。「親が一人で抱えきれない」という声も多かった。産後4カ月まで大変だったことについても質問。「まだまだ睡眠時間が取れない

（妻村友里恵）

NPO法人市内母親にアンケート

子育て相談先 ネット最多



子育てで困ったときの相談先（複数回答）

「子育てで困ったときの相談先」について「同じ経験をしている人を探し、『自分だけではない』と安心する人が多い」と分析。「子育て中の生活は、母親一人ではできない」と言える場を少しでも増やすことが大切」と話した。

佐世保近郊

県北 対馬 壱岐 五島

みんなの実家プロジェクトにご協力をお願いします

みんなの実家プロジェクト2018

誰のどのような状態を

晩婚化、出産の高年齢化、または子育てで家庭の孤立化など、昔とは異なる子育ての状況で、SOSを出せずに抱え込む母親と子育て家庭



どうして泣いてばかりいるの？
おっぱい足りているのかな…
夜眠れなくてつらい…
子どものことがよくわからない…
イライラが続いている など

どのように変えたいのか

①子育て世代が、地域の様々な人たちに支えられ、楽しく子育てができるようになる。

②産前から、不安や困り事が相談でき、出産後から子育てにスムーズに移行できる。

③子どもの健やかな育ちを支えられるよう、子育て文化が継承され、必要なサポートを受けながら、家族として成長していける

誰に何を、どんなふうに提供するのか（4つの事業内容）

誰に→産前産後、子育て期の方。子育てに困難を感じている人

I 子育て応援イベント

→第2回 ようこそ赤ちゃんフェス

子育て当事者が支援者や支援のための様々な活動と出会う。

フェスタ開催をともに作り上げながら支援者がネットワークし、支援の基盤を強化する



II みんなの実家

多世代、多様性対応の居場所をつくる

→実家機能を充実・子育てを応援する

産後の母親の心身のケア（休息）

先輩世代と交流し、育児・家事・食文化を見て学ぶ

III 産前産後からの家事育児をシェア

→産後ケア（生活モデル）

家事の負担軽減で母親の心身の回復力を高める

周囲のサポートと家族の家事シェアで家族の子育て基盤を強化する

IV 夫婦が家族になるための学び

→家族のがっこう

話し合いができる夫婦になる

子どもを理解し子どもとの関わり方がわかる

地域コミュニティなどと上手に関わっていける

「みんなの実家プロジェクト」は全日本社会貢献団体機構より助成金をいただき実施していく事業です。昨年度長崎担当の方よりお声をかけていただき、助成申請した経緯があります。ちいきのなかまの日々の活動にご理解をしてくださった上での事業計画づくりだったので、これまで培った経験をふんだんに盛り込んだものが出来上がったとスタッフ一同満足しています。とはいえ、実際に実施していくこれからが本番です。地域に有効な活動となるよう一層頑張っていきますので、みなさまのお力添えをいただけますようよろしくお願いいたします。



AJOSC
全日本社会貢献団体機構

お産体験をシェアの冊子が完成しています。

女性たちのお産体験の語りが形になりました。

この事業は佐世保市子ども・子育て支援モデル都市化プロジェクト推進事業子育てアイデア実現化奨励金の応援を受けて行いました。

ほとんどの作業がちいきのなかまスタッフの仕事の合間の手仕事で思いのほか時間がかかりましたが、改めて形にできたことは良かったと思っています。印刷の前は、ミスの確認や校正作業で何度も何度も読んでいただいた文章。これからは、みなさんの体験を分析し、またほかの情報とも関連付けて考察して次世代の子育てに活かすことができればと思っています。



体験を話されたみなさんは「話すことができて良かった」と言ってくださいました。単独インタビューもありましたが、グループのなかで共感を得ながら話すことは、とても気持ちが安らぐことなんだと、この取り組みで学びました。

2名の方が冊子掲載を辞退されました。それぞれ直接理由をお話ししていただきました。そのお話を聞いたことも私たちにとっては意義あることだったと思います。おひとりは急な帝王切開のときのトラブルのお話でした。話してみて改めて未だにある心の傷の深さにご自身が気づかれたし、お話の内容から病院が特定される可能性も心配ではありました。もうおひとりも産後から現在進行形で家族との気持ちの行き違いを抱えていて、掲載が不都合な状況だと話してくださいました。

会話の後、今、私たちは帝王切開のこと、そして産前産後の夫婦の関係をどう紡ぐのかについて学習を始めています。当事者のお話を聞かせていただくことが私たちの次のアクションにつながっています。

冊子は、今後頒価でお分けしようと考えています。よろしく願いいたします。

(スタッフM)

「出産は十人十色。私は2人しか出産していないから、他の方の出産や産前産後の事を聞く事はとても大切！」そう思い、子育てアイデア奨励金を受け、グループでお産を語ってもらう企画をし4回実施しました。率直な感想は「私の想像も及ばない出来事が産前産後に起きている！これからは繋げないと！」と思いました。このお産のリアルに今の女性たちが置かれている状況や困難さが詰まっているように感じたからです。あわせて、語り、他の方の体験も聞き感じる事も様々だと実感しました。“もう産まないと思っていたけどもう1人産みたくなった” “自分の中の封じ込めていた感情に向き合い直後はきつかった” など。私自身もどういう感情になるのか体験したくて、語りました。ひとつは私のお産体験です。誰かのお役に立つ事を願っています。

(スタッフY)

「お慶プロジェクト」のロールモデルに当法人 理事長 守永が紹介されました。

長崎県では、女性力を活かした地域社会・経済の活性化を目指し、新たな一歩を踏み出す女性たちを後押しする取り組みとして、県内で活躍している女性をロールモデルとして紹介しています。地域の小さな活動に注目していただきありがたいと思います。

(以下掲載記事です：このHPには活躍されている女性たちが紹介されていますよ。ぜひご覧下さい。)



障がい者のきょうだいとして

家族の問題に関心をもったのは、私が障がい者のきょうだいとして成長してきたことが影響しています。私の弟は自閉症で知的障がい者です。彼

の子ども時代には医療、福祉、制度の対応が不十分で私たち家族は混乱し、弟に対してきちんとした対応ができませんでした。弟は理解されず、また理不尽な対応で苦しんだと思います。しかし両親もまた苦しさを抱えていました。その中で多感な子ども時代を生きた経験が、私の土台です。

私は親の期待に応え「いいお姉ちゃん」であり、505が出せない子どもでした。本当は障がい者が理解できず、知的障がいのきょうだいを恥ずかしく思い、「弟はいない」ことにしたり、いなければいいのに…と思ったことは何度もあります。そんな差別的な自分が嫌いでした。一方でいつも弟を取り巻く環境を醒めた目で批判的に見ていて「家族の視点」から障がい者問題を考え始めたのが10代の頃でした。

福祉系の大学に進学し、たくさんのフィールドに足を運び、様々な人たちと出会いました。私の問題意識は障がい者問題を入口に成長とともにそして仕事を通じて広がり深まりました。

ファミリーサポートセンター事業の運営

結婚後、佐世保に暮らし始めて10年ほど、地域で子どもや女性のための市民活動に取り組みました。転機が訪れたのは平成7年の頃です。当時、療育センターを設立する動きに関わり、同時に佐世保市女性企画懇話会で「ファミリーサポートセンター事業」を提案する機会をいただきました。まだ子育て支援など地域には皆無の状態でした。「子育てが辛い」という当事者の実感を公的なシステム作りに反映できることはとてもやりがいのあることでした。障がい者のきょうだいとして佐世保市子ども発達センター設立に貢献したことは、私の中では弟に対して貢献できたような気持ちでうれしかったです。

ファミリーサポートセンター事業は、提案後に実現の運びとなり、縁あって提案者の私が事業に取り組みることになりました。スタートから8年、自身でNPO法人を設立し、佐世保市からファミリーサポートセンター事業を受託したので、通算20年近くこの仕事に携わってきました。平成23年、ファミサポ事業の職員にママスタッフを採用しました。平成24年度彼女たちの企画でママの起業を応援する「ママフェスタ」を開催し成功を収めました。企画の面白さとネットワークの広がり当事者目線の可能性を感じました。

ファミサポの支援の中で産前産後ケアの必要性を感じ学習会を開始したのは平成25年。地道なアプローチを重ねて平成28年度「産前産後ケアからの切れ目ない支援の構築」をテーマに市内の子育て支援者のネットワークで「ようこそ赤ちゃんフェスタ」を開催。市民の底力を見えぬ化したことが大きな成果。そして産前産後ケアの必要性をアピールしました。孤立化する産後のママたちの苦境を行政に訴え、時代の風の後押しを受けて、翌29年度には佐世保市で産後ケア事業が始まりました。

当事者だからわかること

当事者の言葉や感覚は大切だと思いますし、尊重しないといけないと思います。まず、話を聞くことから支援は始まります。私たちは子育て中の方、支援者両方のお話を聞くことができます。子育ての何が辛いのか、また支援の何が難しくストレスを感じるのか。よくよく聴くと、思いがけない発見があり、当事者への理解が広く深くなっていきます。

大事なのは、当事者の誰かが抱えている課題を言葉にして社会に伝え、みんなで共有して解決につなげていくことです。

常に未来のことは念頭にありますが、どちらかというと現場にいて、人との関係を深く掘り下げていくことで、私の仕事は成り立っているなと思います。

ネットワークからの情報です。

空からのたね助産院さんが実施する取り組みのご紹介。

赤ちゃんの発達応援セミナー

生まれてから1才までの赤ちゃんの体の発達と口腔機能は、密接に影響があります。赤ちゃんの体の発達は個人差があり、正しく発達しているかをみながら、今の赤ちゃんに必要なことをお話とベビーマッサージなどをおこないます。

記

日時：毎月第2木曜日

10:30~12:00

場所：空からのたね助産院

佐世保市八幡町2-16 自由民主党1F

対象：0~1才までの赤ちゃんとママ

定員：4名

参加費：1,000円

申し込み方法：電話 070-4729-4745

メール sorakaranotane@ezweb.ne.jp

QRコード



- ※ 参加希望の場合は、必ず予約をお願いします。定員になりしだい締め切り
- ※ 毎月第2木曜日に開催予定ですが、変更になる場合があります。
- ※ 個別指導コース 4,320円/90分(要予約)

空からのたね助産院 前田 生子



ファミサポでは昨年度から沐浴補助や産後のご家庭の支援を行うように仕様書が見直されました。それ以前から産後体調不良な中で頑張るご家庭のSOSを受けとめつつも、専門職との連携が本当に必要だと実感していたところでした。佐世保助産師会さん、(株)マイユティックス代表の濱脇文子さん、そして前田さんとともにお仕事ができかなり安心感が高くなっています。これからも学習会などの機会をご紹介できたり、ご一緒したりと連携が深まればと思っています。

妊娠中から産後までママの心と体のケア、赤ちゃん誕生後の育児相談もできる「空からのたね助産院」さん。2016年秋から開業されました。助産師の前田生子さんは、共済病院でキャリアを積み、退職後地域でのサポートを開始、ファミリーサポートセンター佐世保の会員養成講座も受講してくださって、子育て支援にも取り組まれています。

そらたね日和

「空からのたね助産院」では、気軽に助産院を訪れていただき、日ごろのストレスを癒していただきたいと思い、毎月1回助産院を開放することにしました。

ゆっくりとお茶を飲んだり、本を読んだり、話をしたり過ごし方は自由です。お気軽にお立ち寄りください。

記

日時：毎月第4木曜日 10:30~14:00

場所：空からのたね助産院

佐世保市八幡町2-16自由民主党ビル1F

対象：女性の方全て(年齢は問いません)

参加費：無料(赤ちゃんの身長・体重測定もできます。)

※カウンセリング(体のケアも可)希望の場合、1,000円/30分 要予約

その月によって、癒しのセラピストもお待ちしています。

カフェメニューとして、お菓子と飲み物などの販売もあります。

申し込み方法：電話 070-4729-4745

メール sorakaranotane@ezweb.ne.jp



- ※ カウンセリング・体のケアを希望の場合は、必ず予約をお願いします。
- ※ 毎月第4木曜日に開催予定ですが、変更になる場合がありますので、ご確認をお願いします。

空からのたね助産院 前田 生子



●これからベントや講座の予定●

よろしければ予定に書き加えていただければ幸い。
イベントには有料・無料、託児の有無などあります。
事前にお問い合わせください。

イベント名	日時	会場	内容
ぼちぼちヨガ教室	4月16日・23日 (月) 14:00～15:00	ボランティア 研修室	定期開催 参加費¥500 会員外¥800
おもちゃ図書館	4月17日(火) 10:00～12:00	ファミサポ 事務所	定期開催 参加費無料
こうじくんの カレー曜日	4月19日(木) 12:00～	ファミサポ 事務所	みんなでランチ 参加費¥500
ファミサポ 会員養成講座	5月22.23.24日	各会場	ファミサポ 提供会員さん必修講座

後記

佐世保市が実施したアンケート「子育てしやすい街づくりのためのアンケート調査」の結果を見てみました。第二子の壁が存在していて、2人目出産に踏み出せない方がたくさんいる現状について調査したアンケートです。結果を読むと私たちの実感と同じところもあり、興味深く読みました。職場での理解が得られないと感じている方が多いとのこと。核家族で、近隣の付き合いもなく、夫婦が共働きの場合、職場の同僚や上司から理解を得られないと孤立感深まるだろう。とはいえ、将来を思うと、これまでのように妻が仕事を辞めて子育てに専念、は経済的にリスクが高い。そうこうしているうちに2人目を諦めているのだろうと思われます。

大分県の子育て支援計画の評価の指標に「地域の理解と支援の状況」がありました。地域の子育て応援の機運の数値化は難しいとしても、子育て家族の孤立感の解消が大事というのは本当な気がします。「自分の子育てはみなさんから支えられている」という実感はどう皆さんに持っていただけるか…知恵の絞りどころかもしれません。

NPO法人ちいきのなかま

入会・会員(正・賛助) 会員継続のご案内

正会員：総会議決権あり 入会金¥1,000 年会費¥6,000

賛助会員：総会議決権なし 年会費¥3,000



主な特典：各種事業会員特別料金にてご優待

連絡先 NPO法人ちいきのなかま

〒857 0022長崎県佐世保市山手町9-19

携帯 090-9498-3608

E-mail:chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp

HP:http://chiikinonakama.boj.jp/